

授業科目

コミュニケーション演習 (高齢者)

担当教員名 山内 一、竹井 豊、神藏 貴久、大松 健太郎、安達 哲浩	対象学年	1	対象学科	救急
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

授業の概要

救急救命士は、不安、焦燥、恐怖などの感情をもつ傷病者および関係者から、通常とは異なる状況下での情報収集をすることが求められる。そのためには、必要な情報を抽出し、短時間のなかで信頼関係を構築することが重要となる。

本科目では、高齢者を対象とした救急救命活動に際し、救急救命士に求められるコミュニケーション能力を修得する。

授業の目的

高齢者を対象として救急救命士に求められるコミュニケーション能力を修得する。

学習目標

1. 高齢者の特徴を理解し、対象者の尊厳を守ったうえでコミュニケーションをとることができる。
2. 情報から対象者の人物像・背景などをまとめることができる。

授業計画

授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
演習における学び方等については初回にオリエンテーションを行なう。 オリエンテーション及び発表以外の演習は開講期間中の1～2日間（実習受入れ機関により変動あり）。 実習内容は、演習受入れ機関において、対象とコミュニケーションをとり、特徴などをまとめる。（1演習日につき最低1症例） 詳細な指導計画については、演習受入れ機関の計画による。 演習指導は演習受入れ機関の演習指導者が行い、担当教員による巡回指導もあわせて行なう。 演習した内容から救急現場におけるコミュニケーションのあり方をレポートとしてまとめる。 最終的に発表を行なう。	演習	山内 一、竹井 豊、神藏 貴久、大松 健太郎、安達 哲浩 他

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	改訂第9版 救急救命士標準テキスト 上巻	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版	2015年	10,584円	1年次購入済
	改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻	救急救命士標準テキスト編集委員会へるす出版	へるす出版	2015年	10,584円	1年次購入済
参考書						
その他の資料						

評価方法

1. 科目試験はレポート形式により、下記をもって合格とする。
 - (1) 期限内に必要な数（別途提示）を提出すること。
 - (2) 症例検討（別途提示）にて発表すること。
2. 科目試験が不合格であった場合は、再実習を行い、1.に挙げた要項をもって再判定する。

履修上の留意点

以下に挙げる場合は、科目試験の判定を放棄したものとみなす。

1. 病気、怪我などの身体的理由（要診断書）または適正な理由（要担当教員許可）が無く欠席または遅刻をした場合。
2. 授業態度不良と判断された場合。

オフィスアワー・連絡先

授業開始時に担当教員より連絡する。